

高き志【こころざし】

地域とともにある

勢いのある学校

No. 24 (R2. 11. 4発行) 文責 校長 福田雅也

何も咲かない寒い日は…

「何も咲かない寒い日は、
下へ下へと根を伸ばせ。 やがて大きな花が咲く。」

とても、心にしみる言葉だと思いませんか。

ご存知の方も多いかと思いますが、これは、シドニーオリンピック女子マラソン金メダリストである高橋尚子選手の座右の銘だそうです。競技人生全体としては、成功だけで終わった選手ではないので、ますます深い言葉に感じます。

私が、高橋選手の座右の銘として、この言葉を初めて知ったのは、高橋選手がもう選手としてのピークを過ぎ、とても苦しんでいるだろうと思われた時期でした。この言葉を胸に、世界の頂点に立ったものの、追われる立場となり、なかなか結果が出せない中で、再びこの言葉を自分に言い聞かせて努力を重ねているのであろうと思うと、深い感銘を受けたのを覚えています。

高校時代の高橋選手は、決して強い選手とはいえず、全国大会でも、なかなか上位に食い込むことはできなかったそうです。そんな苦しい時代に、高校の陸上部の顧問であった中澤正仁という先生から贈られた言葉がこれだそうです。言葉の作者は、はっきり分からないようです。きっと、この言葉を胸に、毎日の練習を精一杯頑張っていたことでしょう。しかし、それでも、高校時代は状況に大きな変化はなかったようです。その後社会人選手になって、小出監督との出会いがあり、世界一とも言われた練習量をこなし、極限まで肉体を鍛え、力を高めたそうです。そして、シドニーオリンピックでの優勝という大きな、大きな花を咲かせることができたのはご存知のとおりです。

とても好きな言葉なので、集会等でこの言葉を使って子どもたちに話をしようかと考えたこともありました。が、小学生にとっては少し難しいかなと思い、まだ話したことはありません。しかし、中学生くらいになり、部活を頑張るようになったらぜひ伝えたいなと思える言葉です。

そして、日々順調なことばかりではない私たち自身が、壁にぶつかった時に思い起こしたいと思える言葉でもあります。